

1/21 赤旗

GOTOの見直し提言

コロナ分科会 感染急増地域で

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会は20日、一部の都道府県が感染急増段階の「ステージ3」に入りつつあるとし、これらの地域で「Go To」トラベルの運用見直しを求める方針を決めた。移動の自粛なども求める。ステージ3にあたるかは地元知事が判断するが、より強力な対策を迫る。国内の新たな感染者はこの日、2400人を超え、過去最多を更新した。▼2面＝医療崩壊に危機感、4面＝野党攻勢

分科会がまとめた政府への提言案の骨子

- ◆ステージ3に入りつつある都道府県がある。その一部の地域では、既にステージ3相当の強い対策が必要な状況に達したと考えられる
- ◆強い対策を打つためには短期間（3週間）に集中し、感染リスクが高い状況に焦点を絞る。以下の5点が特に重要
- ①営業時間の短縮
当該自治体はできるだけ迅速に、3週間程度の期間限定で、酒類の提供を行う飲食店に対し、夜間の営業時間の短縮要請または休業要請を行う
- ②地域の移動にかかわる自粛要請
感染予防を徹底できない場合は感染が拡大している地域との移動を自粛
- ③「Go To キャンペーン」事業の運用見直しの検討
「Go To トラベル」は、都道府県知事の意見も踏まえ、一部区域の除外を含め、運用の早急な見直しの検討
「Go To イート」は、プレミアム付き食事券の新規発行一時停止、発行済み食事券やオンラインで飲食予約したポイントの利用を控える呼びかけ
- ④人々の行動変容の促進
「五つの場面」（飲食を伴う懇親会など）の回避を今まで以上に順守
職場でのテレワークを今まで以上に推進
- ⑥その他
年末年始の休暇分散
小規模分散型旅行の推進

分科会は、感染状況を①感染者が散発的に発生②漸増③急増④爆発的に感染拡大という四つに分け、ステージ3が上がることに感染対策を強める考えを示してきた。ステージ4では「緊急事態宣言など強制性のある対応を検討せざるを得ない」とし、ステージ3で

は、夜間や酒類を提供する飲食店への外出自粛や、感染予防が徹底できない場合に感染拡大地域との行き来を自粛などを求めている。政府の「Go To ドラベル」や「Go To イート」もステージ2以下で実施するよう9月に提言していた。人の移動や会食を促すため、感染拡大につながる恐れがあるためだ。これまで、どの都道府県もステージ2以下とみなされてきた。11月に入って北海道や東京都などは、分科会が示したステージ3の六つの指標のうち多くで上回るが、判断は知事に委ねられ、分科会のステージに即した対策の議論は進んで

いなかった。

この日の分科会の提言案によると、いくつもの都道府県では一部地域でステージ3相当の強い対策が必要な状況と指摘。「トラベル」の一部区域の除外を含めて、政府に早急な見直しを求め、「イート」も、感染状況を踏まえて、食事券発行の一時停止などの検討が必要との考えを示した。

提言案では、どの都道府県がステージ3相当かは示していない。ただ、19日に会合があった厚生労働省の専門家組織は、「北海道の一部の地域では、接触機会の削減・行動制限などの強い対策が求

められる状況」と評価。東京都、大阪府、愛知県もこの状態に「近づきつつある」とし、これらの地域を念頭に置いているとみられる。

分科会は20日夜に提言を正式に決め、政府は21日に対策本部を開く。地方に検討を委ねていた営業時間の短縮要請を政府からも求めることや、3週間程度は感染が拡大している地域への移動の自粛を求めることなどで検討と調整を続けている。

大阪最多 370人感染

20日午後10時時点で国内では新たに2426人の感染者が確認され、3日連続で過去最多を更新した。2千人を超えたのも3日連続となる。大阪、北海道、山口、岩手、大分の5道府県で過去最多となった。死者

は新たに14人が確認された。北海道では304人の感染が確認され、初めて300人を超えた。このうち191人が札幌市内で、病院などでクラスター（感染者集団）が起きた。鈴木直道

知事は「3連休の外出は慎重にも慎重を重ね、感染リスクを回避できるか検討してほしい。今が正念場だ」と述べた。東京都内では522人の感染が確認され、2日連続で500人を超えた。豊洲市場（江東区）で新たに30人の感染が確認され、同市場関係者の感染は8月15日に確認されて以降、計114人になった。大阪府はこの日、370人の感染が確認された。岩手県は15人で、7月29日に初確認されて以降最多となった。山口県内では23人が確認され、特に岩国市内で感染が広がっている。